

— 個人事例 —

友だちといっしょにきまりを守って行動する子

河田 祐子

はじめに

Y子は、今年度、公立小より本校中学部へ入学してきた。上級生には、同じ小学校を卒業した先輩もたくさんおり、新しい先生や友だちにもすぐに慣れて、誰にでも親しく話しかけるようになった。しかし、場をわきまえない言動、身辺自立の面での問題等、本生徒には、様々な課題があることが明らかになり、指導に取り組むこととなった。Y子は本校に入学して1年を経ようとしているが、少しずつ、集団生活のきまりを身につけ、中学生らしい言動ができつつある。この経過について、以下に述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和56年12月8日生 13歳1か月 中学部1年 女子
- ・早産（7か月） 560gで生まれる 小頭症
- ・1人っ子で両親と3人家族

両親は本生徒の教育に熱心であるが接し方にやや問題がある。

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査 IQ49以下（言語性42 動作性45）WISC-R
- ・感覚入力に対する反応検査

重力不安を持っており、触覚系のバランスが悪い。

前庭系の感覚が鈍い。

- ・S-M社会生活能力検査 SA6:1
他の領域に比べ、集団参加、自己統制の領域が低い。

- ・コミュニケーション・サンプル
周囲の教師や友だちの誰にでもよく話しかけ、要求や情報請求が多い。

領域	領域別社会生活年齢															
SH 身辺自立 Self-Help	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
L 移動 Locomotion																
O 作業 Occupation																
C 意志交換 Communication																
S 集団参加 Socialization																
SD 自己統制 Self-Direction																

S-M社会生活能力検査

(3) 行動・コミュニケーションの特性

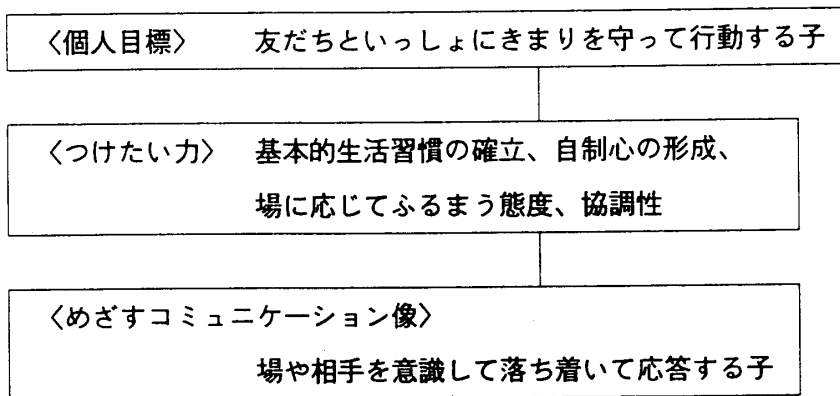
- ・誰にでもよく話しかけるが、やや勝手な行動や落ち着きのなさが目立つ。
- ・排泄の失敗があり、声かけが必要である。
- ・くるくる回ったり、両手をバタバタ動かす常同行動が見られる。
- ・場や相手を意識したふるまいができていく。好きなテレビ番組や自分のしたいことにこだわり始

めると、どんな場であろうと容易に抜けきれない。日常の会話では「あ、そう」「何よ」等の乱れた言葉遣いをしがちである。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

以上の実態をもとに、本生徒が友だちと一緒にきまりを守りながら楽しんで活動する姿をめざして次の様な仮説を設定した。



周囲の人と明るく接する面や学習意欲を大切にしながら、日々の生活に見通しやめあてを持って取り組ませる。その中で、集団生活でのきまりを守ることの大切さ、場や相手に応じたふるまいの仕方を知らせ、身につけさせていく。また、学級の中で自分なりの思いを出しながら楽しく活動させ、やり遂げた満足感や友だちと関わることの楽しさを味わわせる。こうして、中学生らしい行動のできる生徒へと育てていくことは、友だちと一緒に、けじめを保ちながら、より積極的に活動するY子の姿へつながると考える。

(2) 指導方針


- ① 日々の活動の見通しがもてるように配慮し、今すべきことを意識させていく。
- ② 場を捉えては中学生らしい行動やマナーを指導し、中学生としての自覚を持たせる。
- ③ 本人との約束や具体的なめあてを決め、守れているかどうかを本人に確かめさせ、賞賛や励ましをあたえる。

3 指導の実際

(1) 生活単元学習

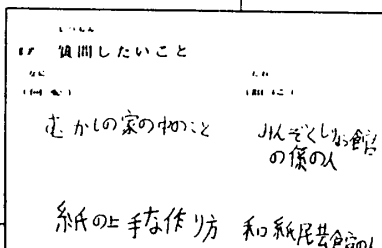
相手や場を意識したふるまいができにくいY子にとって、生活単元学習において様々な集団の中で友だちと関わりながら自分なりに見通しを持って取り組むことは、よい影響を及ぼすものと期待される。「キャンプ」「校外学習」「大山宿泊学習」と続いた大単元を経験することにより、少しずつ「友だちといっしょにきまりを守って行動する子」へと近づいているY子の姿をあげてみたい。

① 「キャンプ」での取り組み

題 材	取り組みの様子（教師・友だちの関わり、手だて）	要 因
学習計画の話し合い	（昨年度の写真を手がかりに、持ち物を話し合わせる） 「なべやまな板は調理室のを持っていきます」と、自分なりに考えて言う。	・キャンプへの見通しと意欲
炊飯練習	（手順表に従って、役割分担を確かめた後、作業にかからせる） D男に、「2回米を入れんといけんね」と話しかけながら作業する。米とぎや玉ねぎ切りを楽しそうに続ける。	・好きな作業
竹のコップ作り	（U男と2人で活動させる。U男が、「しっかり持って」「力を入れて」と次々指示する） U男の言葉に素直に「うん、うん」とうなずきながら作業を進めていた。 	・初めて作る竹のコップへの期待 ・2人で協力しあうことを楽しむ気持ち
出し物練習	（Y子に、「セーラームーンの歌はH子さんが悲しくなるからやめよう」と説得する） 初めは、「いやだ。絶対したい。セーラームーンが好きだもん」と頑張るが、次第にあきらめて、「分かった。家でテレビを見るからいい」と自分の主張を引く。	・友だちを思いやる気持ち

キャンプ当日は、学級委員長として、日程表を見ながら指示を出させていったが、かなり教師の援助を必要とした。しかし、この單元では、自分なりの考えを発表しようとしたり、友だちを思いやり協力したりする場面が見られた。

② 「校外学習」での取り組み

題 材	取り組みの様子（教師・友だちの関わり、手だて）	要 因
質問したいこと 	（校外学習で質問したいことを、前日にしおりに書きこみ、確かめさせた） 民族資料館と和紙民芸館の人に聞くことを、自分なりに考えて書いていた。	・写真によるイメージ ・紙すきの学習経験による関心の高まり

新聞作り	(経験したことを新聞にまとめてみようと話し、一人ひとりが一番心に残ったところをかくように指示をする) すぐに、「Y先生とカレーライスを食べたこと」と発表する。絵を描きながら、その中に文で説明を加えていた。	・一番楽しかった 思い
------	---	----------------

この単元は、1年生だけで佐治へ校外学習へ行くということで、様子がよくわからないながらも、自分たちで計画を立てて行くのだというねらいをY子も理解したようであった。学習で決めたことはすべてしおりに書きこむことで、校外学習の計画が定着し、自分の考えもはっきりさせていった。また、当日は、暑い1日であったが、学級の友だちと行動を共にしてよく歩いた。この学習で、「1年生の5人の仲間」という気持ちが、少しずつ育ったように思う。

③ 「大山宿泊学習」での取り組み

題 材	取り組みの様子 (教師・友だちの関わり、手だて)	要 因
出し物決定	〈セーラームーンの歌がいい〉と強く主張する。賛成するものがないが、いつまでも主張する。 (I男やK男が「自分のクラスでいつかしたらいい」などと説得するが聞き入れない。K先生が、「バスの中で歌えるよう頼んでみよう」と案を出される) ようやく納得する。	・好きな歌へのこだわり ・自分の主張を通したい。
日程表作り	D男の応答の仕方が違うと「～じゃないの」と訂正し、教える。	・応援する気持ち
大山宿泊学習当日	班の友だちと一緒に励まし合いながら、5合目まで登山。途中一度座り込むが、思い直して歩き出す。	・協力することの大切さを実感

当日は、バスの中で好きな歌を歌うことができ、満足そうなY子であった。この単元では、同じ班の他学年の友だちや先生とも活動する経験をし、関わりを拡げる機会となった。班での学習が始まった頃は、D男と2人がおとなしく座っているだけだったが、学習を重ねるに従って自分の意見が言えたり、友だちの発言を援助したりできるようになった。しかし、自分の主張を押し通そうとする面については、さらに指導が必要である。



(2) 課題学習

Y子は、毎朝課題学習で、スクーターボードや回転板を使った運動と

セーラームーンの歌を歌うY子

